

# 哲学・思想論叢

第36号

哲学・思想論叢

MISCELLANEA PHILOSOPHICA

THE TETSUGAKU SHISŌ RONSŌ

No. 36

January 2018

彙報	第三十八回学術大会発表要旨	「直観」および「知解」との対照において	デカルト形而上学における「経験」概念に関する考察	宣教師から見た「祭祀」 —フランソワ・ノエル『中国哲学三論』「第二論文」を中心に—	デイヴィッドソニアンから見た分析哲学における自己知論の展開	トマス・アクィナスにおける知恵と依存性の秩序	「正しい墓」のプロモーション	昭和初期・東京における墓相の展開	倫理の言表不可能性の問題 —『論考』期ウイトゲンシュタインの倫理思想—	トマス・アクィナスによる個体化理論の基礎	個体化の原理に潜む二つの側面	カント倫理学において意志の弱さはいかにして可能か	沖繩の米軍初期占領期の宗教政策とキリスト者
7	1	142	128	112	98	84	66	52	38	24	24	38	24
田村歩	竹中淳	小川祐輔	高石憲明	問芝志保	馬場美奈子	石田隆太	千葉建	平良直					

第三十六号

二〇一八年

筑波大学哲学・思想学会

Christians and Early Occupation Policy on Religion in Okinawa	Sunao TAIRA	24
How is Weakness of the Will possible in Kantian Ethics?	Ken CHIBA	38
Two Aspects Latent in the Principle of Individuation: The Basis of Thomas Aquinas's Individuation Theory	Ryuta ISHIDA	52
Early Wittgenstein on the Ineffability of Ethics	Minako BABA	66
The Development of Fortune-telling by Shape of Graves in Tokyo during Early Showa Era	Siho TOISHIBA	84
Wisdom and The Order of Dependence in Thomas Aquinas	Noriaki TAKAISHI	98
The Development of Theories of Self-Knowledge in Analytic Philosophy Seen from a Davidsonian Perspective	Yusuke OGAWA	112
Ceremony of the dead from the perspective of missionaries -Centering on <i>Philosophia Sinica Tribus tractatibus</i> , article 2-	Atushi TAKENAKA	128
The Role of Experience in Descartes's Metaphysics	Ayumu TAMURA	142

published by

UNIVERSITY OF TSUKUBA PHILOSOPHICAL ASSOCIATION

Office: % Doctoral Program in Philosophy, Graduate School of

Humanities and Social Sciences University of Tsukuba

IBARAKI 305-8571 JAPAN

2018年1月

筑波大学哲学・思想学会

# 筑波大学 哲学・思想学会規約 (平成十九年十月二十七日改正)

## 名称

第一条 本会は筑波大学哲学・思想学会と称する。

## 目的

第二条 本会は哲学、倫理学、宗教学、比較思想学、現代思想学等  
広く哲学・思想に関わる学問諸領域の研究およびその普及  
をもって目的とする。

## 事業

第三条 本会は左記の事業を行う。  
一、研究会の開催 二、講演会の開催 三、機関誌『哲学・  
思想論叢』の発行 四、その他

## 事務局

第四条 本会の事務局は筑波大学大学院人文社会科学研究所哲学・  
思想専攻内に置く

## 会員

第五条 左記の者を会員とする。  
一、東京高等師範学校、東京文理科大学、東京教育大学、  
筑波大学の教官、教官であった者、卒業生で入会を希  
望する者。  
二、筑波大学の大学院生で入会を希望する者。  
三、その他本会の趣旨に賛同し入会を希望する者で評議員  
会の承認をえた者。

第五条の二 左記の者をもって準会員とする。準会員は議決権をも  
たず、左記の権利のみを有するものとする。

一、団体会員、本会に団体として入会を希望する者で、評  
議員会の承認をえた者、団体会員は機関誌の配布を受  
けることができる。  
二、学生会員、筑波大学の学群学生で入会を希望する者、

学生会員は機関誌の配布を受け、また大会等に出席す  
ることができる。

第六条 会員は会費一年額四千円、(六十三年度分までは三千円)  
を納入するものとする。

第六条の二 準会員は左記の会費を納入するものとする。  
一、団体会員 年額五千円  
二、学生会員 年額千円

第七条 本会は総会の推薦により終身会員を置くことができる。

## 役員

第八条 本会に左記の役員を置き会の運営に当たる。

一、会長(一名) 評議員の互選による。任期二年。  
二、評議員(二十名) うち十五名は会員の互選により、  
残りの五名は会長の推薦による。任期二年。  
三、事務局代表(二名) 評議員会においてこれを委嘱する。  
任期二年。

四、幹事(若干名) 評議員会においてこれを委嘱する。  
五、会計監査(二名) 総会においてこれを選出する。任期  
二年。

六、編集委員(若干名) 評議員会においてこれを委嘱する。  
任期二年。

## 総会

第九条 本会は毎年一回総会を開くものとする。但し、必要ある場  
合には臨時総会を開くことができる。

## 付則

第十条 本会規約の改正変更は総会の決議による。

以上

## 『哲学・思想論叢』論文執筆規定

一 (執筆資格) 本学会員で当該年次まで(当該年次分を含む)の  
学会費を完納している者に限る。場合により編集委員会から依頼  
することがある。

二 (内容) 未発表の学術論文・レビュー論文・書評論文。

三 (審査) 編集委員会が審査する。不採用のものについては連絡  
する。

四 (論文の提出および返却) 正一部、副二部(副二部はコピーで  
も可)。清書のこと。ワープロの場合は、あわせてデジタルデー  
タを提出のこと。提出は簡易書留にて締切日(郵便消印有効)を  
厳守のこと。提出論文は一切返却しない。

五 (論文の体裁等)

1 ワープロ:字数(註を含む)は、和文の場合、一万六千字以  
内(厳守)。欧文タイトルを付ける。欧文の場合、六千語以  
内(厳守)。書式は、縦書き、横書きのいずれも可。印刷は、  
A4判用紙を使用。(ただし、縦書きの場合、用紙は横置き、  
横書きの場合、用紙は縦置きで印刷のこと)。

2 和文(手書きの場合):四百字×四十枚以内(注を含む)厳守。  
引用の欧文は一ますに二字で記入する。用紙は、原則として  
縦書きB4判四百字・B5判四百字・B5判二百字詰の内ど  
れかを使用する。欧文タイトルをつける。  
執筆言語が母語でない場合は、ネイティブによるチェックを  
受けること。

六 (稿料) 支払わない。

七 (抜刷) 希望者実費負担(三十部に限る)。

八 (執筆者負担) 特殊製版(図版・写真版等)・特殊活字(ギリ  
シア文字・ロシア文字等)・横組み・組かえ等の特別費用は執筆  
者が負担する。

九 (校正) 再校までは必ず行う。それ以後は時間的余裕がある限  
り行う。

十 (付則) 掲載の論文等は、筑波大学電子図書館システムに登録  
される。

## 哲学・思想論叢 第三十六号

平成三十年一月三十一日発行 会員配布

編集者

五十嵐 沙千子

発行人

津崎 良典

編集委員

小野 基

編集委員

鬼界 彰夫

編集委員

木村 武史

編集委員

千葉 建

編集委員

檜垣 良成

編集委員

土井 裕人

編集委員

津崎 良典

編集委員

土井 裕人

印刷

英城 塚つくば市天久保 一二二一

印刷

コスミックイマージュ

印刷

電話 〇二九八七五八七六三

◎ 学会関係の事務は左記で行っています。

〒三〇五―八五七―一

つくば市天王台一―一―一

筑波大学大学院人文社会科学研究所

哲学・思想専攻 気付

筑波大学哲学・思想学会

電話 〇二九・八五三・四一三三

郵便振替 〇〇三二〇―九一―七七四七